

長編ドキュメンタリー映画

ミツバチの羽音と地球の回転

スウェーデン —— 祝島 エネルギーの未来を切り開く人々



平成24年 1月4日(水)
前売開始!!



未来のエネルギーをどうするのか?

東日本大震災から1年たった今、遠い世界の話ではない、
私達の「持続可能な未来」について、一緒に考えてみませんか?

とき 平成24年3月4日(日)

13:30 ~ 15:50 上映 (13:00開場)

15:50 ~ 16:45 鎌仲ひとみ監督 会場トーク

ところ 高岡市生涯学習センターホール (ウイング・ウイング高岡4階)

参加料 1,000円 (大学生以下無料)

前売販売所 高岡市生涯学習センター3階カウンター



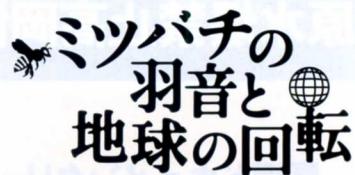
鎌仲 ひとみ (Kamanaka Hitomi)
映像作家 富山県氷見市出身

早稲田大学卒業と同時にドキュメンタリー制作の現場へ。90年最初の作品「スエチャおじさん」を監督、同年文化庁の助成を受けてカナダ国立映画制作所へ。93年からNYのペーパータイガーに参加してメディア・アクティビスト活動。95年帰国以来、フリーの映像作家としてテレビ、映画の監督をつとめる。2003年ドキュメンタリー映画「ヒバクシャー世界の終わりに」を監督。国内外で受賞、全国400ヶ所で上映。2006年「六ヶ所村ラプソディー」は国内外650ヶ所で上映。2010年4月、待望の最新作「ミツバチの羽音と地球の回転」を完成!明治大学、多摩美術大学、国際基督教大学、津田塾などで非常勤講師もつとめる。著作「ドキュメンタリーの力」「内部被爆の脅威—原爆から劣化ウラン弾まで」「ヒバクシャー:ドキュメンタリーの現場から」「六ヶ所村ラプソディー ドキュメンタリー現在進行形」など。

お問い合わせ: 原水爆禁止高岡協議会 (高岡市教育委員会生涯学習課内)

〒939-0023 富山県高岡市末広町1-7 ウイング・ウイング高岡3階

TEL: 0766-20-1802



監督メッセージ

ここで生きていく決意が世界を動かす

瀬戸内海祝島では自給自足的な暮らしが営まれ、漁師やおばちゃんたちがきれいな海を守りたいと28年間も原発建設に反対してきた。島で一番若い働き手、孝くんはエネルギーの自給もしたいと望んでいる。しかし、圧倒的な経済力と権力が原発建設を推進し続けている。一方、北欧のスウェーデンでは脱石油・脱原発を決め、着実にエネルギーを自然エネルギーへとシフトし、持続可能な社会づくりが進んでいる。

どうしたら未来のエネルギーを自分たちの手で選択し、作り出せるのか。私たちと全く同じ普通の人々の感性と思いが国を超えて交差し、新しいビジョンを描きだす。未来を待たずに、今、未来を作り出す現場がここにある。自然と共に振し、エネルギーを生み出すミツバチのような人々の羽音が聞こえてくる。

鎌仲ひとみ

監督：鎌仲ひとみ

プロデューサー：小泉修吉

音楽：Shing02

撮影：岩田まきこ、秋葉清功、山本健二

録音：河崎宏一、服部卓爾

助監督：豊里洋、南田美紅、齋藤愛

編集：辻井潔

編集スタジオ：MJ

録音スタジオ：東京テレビセンター

制作・配給：グループ現代

2010年／カラー／デジタル／135分

言葉も電気も食べ物も、すべてエネルギー。

どこで産まれて、どこへ行くのか。

それは人間の生活、そして命そのもの。 Shing02 (ミュージシャン)

生存権の一つとして、何によって作られた電気を使うか、核なのか、風なのか、太陽の光なのか、選ぶ権利があるはず。

坂本龍一 (音楽家)

世界をたった一つの思考法が覆い尽くしている。
その思考法と向かいあい、生存のための「祝島型モジュール」を生き延びさせ、それらをたがいに結び合わせていくこと。
それだけが、人類の命運を変えうる唯一の道。

中沢新一 (人類学者)

気付いた人達が確かな行動を起こしている。
その事実に出会う時、私達は知恵と勇気を分けてもらえる。
そして、野花を小瓶に飾るようなユーモア。
今、この国にとって最も重要な映画だと思います。

UA (歌手)

祝島自然エネルギー100%プロジェクト
祝島島民が主体となり、自然エネルギーで100%自立する島を目指すためのプロジェクト。

1% for 祝島
企業、団体、個人、アーティストなどが売上げの1%を寄付することで「祝島自然エネルギー100%プロジェクト」を資金面で支援するためのプログラム。
キャンペーンロゴは黒田征太郎氏デザイン。

必聴、映画のオリジナルサウンドトラック
Ashes to Honey
searching for a sustainable future
売り上げの1%が「祝島自然エネルギー100%プロジェクト」に寄付されます。



上関原発予定地

(山口県上関町田ノ浦)

1982年に持ち上がった中国電力の原発建設計画。予定地の対岸に浮かぶ祝島では千年も前から自然と共にある暮らしが続いてきた。島民は未来の世代に豊かな海を残したいと計画に反対し続けている。予定地周辺には絶滅が危惧される多様な希少生物が生息している。